

22 使えるお金

1 主 題 平和

2 主題・教材について

「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。」これは、「国際連合教育科学文化機関憲章（ユネスコ憲章）」の前文に掲げられたものである。

ユネスコは、第2次世界大戦後の1946年に、人類が二度と戦争の惨禍を繰り返さないようにとの願いを込めて創設され、国際理解や国際協力を推進し、人々の交流を通じた国際平和と人類の福祉を促進している。

世界では、このような平和な社会の実現を求める動きがある一方で、世界全体の軍事費は、1兆7,760億ドル（約213兆円）という調査結果が出されている。（2014年、ストックホルム国際平和研究所）

9月8日は「国際識字デー」とされている。これは、1965年9月8日イランで開催された「テヘラン会議」において、当時のパーレビー国王が、各国の軍事費1日分を識字基金に拠出するよう提案したことが端緒となっている。EFAグローバルモニタリングレポート2015（ユネスコ統計局推計）によると、世界には、紛争や貧困等により、学齢期に学校に行けないまま成人し、文字の読み書きができない人（非識字者）が約7億8100万人いる。

平和な社会の実現に向け、軍備は必要か否かといったことについては多くの場で議論がなされてきた。その結果としての今をどのように捉えるか。先のような現実も踏まえ、この世に存する一人一人が自らの課題として向き合うことが求められる。そのためには、身近な現実を重ねた学習展開が有効と考えられる。

この教材では、家庭の予算を決めるアクティビティ「使えるお金」を行う。家族の一員として、互いの欲しいものや必要なものを手に入れようと話し合う過程を通して、自分たちが本当に必要としているものを認識する。その上で、世界の予算執行状況に着目し、平和な社会の実現に向け、真に必要なものは何か、それを手に入れるためのお金の使い方は、といったことを考えさせたい。その活動を通して、平和な社会を実現する主体者としての自覚を身に付けさせたい。

3 ねらい ・ 平和な社会を実現する主体者としての自覚を身に付ける。。

4 展開例

過程	主な学習活動	指導上の留意点	備考
導 入	グループ（家族）になろう。		
	4、5人1組のグループを作る。 - グループを家族と見立て、父、母、子ども（たち）といった役割を決める。	- 家族の有り様は多様であることをふまえ、役割は固定的な観念に縛られなくてよいものとする。 - 各グループから親を1人だけ集め、他の学習者に内容を知られないように、「親の役割カード」を渡す。	
展 開	アクティビティ「使えるお金」をしよう。		
	- アクティビティ「使えるお金」を行う。 - 小グループに分かれて活動する。	「進め方」に沿って、ファシリテーター（豊かなコミュニケーションを育み、個々の力が活かされるプロセスを作る進行役）として進行する。	資料 ワークシート A3程度の用紙 DVD
ま と め	学習をふり返ろう。		
	学習をふり返り、感想を出し合う。		

アクティビティ「使えるお金」の進め方

□準備する物

- ・「品目カード」（44枚で1セット、ワークシートを切って作る）を封筒に入れたもの
- ・A3程度用の紙
- ・「親の役割カード」〔それぞれ、グループの数〕
- ・「2001年度における世界の年間総支出額（なかまとともに高等学校・DVD教材）」
- ・DVD画像データを提示するための機材（パソコン、プロジェクターなど）〔一式〕

□事前の準備

- ・アクティビティを始める前に、各グループで「特別な親の役割」を果たす人を1人選んでおく。
- ・その人には、「親の役割カード」を渡しておく。
- ・さらに、他のメンバーには「特別な親の役割」について内緒にしておくように指示する。

□進行

- ① それぞれ一つの家族を意味する小グループに分かれて活動すること、その活動の目的は、それぞれの家族が来月の家計予算を作成することであると説明する。
- ② 参加者を小グループに分かれさせる。（1グループ当たり5人以内にすることが望ましい。）
それぞれのグループは父親、母親および子ども（たち）から成り立つ。誰がどの役をするかは、相談して決めさせる。
- ③ 各グループに品目カードが入っている封筒とA3程度の用紙を配る。
- ④ それぞれの家計の予算額を1か月250,000円とし、家族でどう使うかを相談する。ただし、カードにある物にしか使えないこと、カードに書かれた額でしか使えないことを確認する。
- ⑤ 最終的に使い道が決まったら、使うことになったカードを色ごとに分けて整理し、A3程度の用紙に貼り、それぞれの色ごとの合計額を記入する。（ここまで目安として、約15分）
- ⑥ 各グループで作られた予算を掲示し、各グループからなぜそのような予算になったかの発表（説明）を行う。その際、次のような質問（インタビュー）を行う。
 - ・家族はどのように予算を決めましたか。それは民主的なやり方でしたか。
 - ・決定をするのに、何を基準にしましたか。（何を優先しましたか。）
 - ・自分が重要だと考えた品目が家族の他の人たちに支持されず、予算からはずされたときに、どのように感じたでしょう。
- ⑦ すべてのグループの発表が終わったら、それぞれの色について説明する。

■：食費	■：住居費	■：水道・光熱費	■：通信費	■：保険料
■：趣味・娯楽費	■：医療費	■：交際費	□：医療費	■：教育費
■：交通費	■：その他	■：防犯費		
- ⑧ 防犯費（黒）に注目し、以下の点について意見交換を行う。
 - ・防犯費は計上していますか。している場合は、なぜ計上しましたか。それはだれのどのような意見によるものでしたか。もし、していなかったとしたら、それはどのような理由からですか。
- ⑨ 「2001年度における世界の年間総支出額」を提示し、以下のような質問を投げかけ、意見交換を行う。
 - ・家族の予算と世界の年間総支出額との間に、似たところがありますか。
 - ・家族の予算と世界の年間総支出額との間で、違っているのはどんなことですか。それはどうしてだと思いますか。
 - ・軍装備品、兵器及び他の軍事関連物資に使われている総国家予算についてどう思いますか。
 - ・世界中の国々はなぜそんなに多くの予算を軍事費に費やすのでしょうか。
 - ・このような予算執行により、世界はいっそう安全でより平和になったのでしょうか。
 - ・わたしたちはどうすれば状況を変えることができるでしょう。

親の役割カード

あなたは一家の稼ぎ手です。だから、お金に関することについては、家族の中で誰よりも大きな発言権があります。要するに、あなたは誰がなんと言おうとも、お金の使い道について考えを譲らないのです。

今、あなたは、自分たちの住んでいる町の治安が悪いと思っています。最近近所の家が泥棒にありました。近くの交差点では、交通事故も発生しています。なんだか、不審者も出没しているようです。とにかく、今はきわめて危険な世の中なのです。

そんなわけで、あなたは家族と家と財産の防衛と安全保障を一番に考えています。

〔参考資料：公益財団法人 人権教育啓発推進センター
『コンパシット【羅針盤】学校教育・生涯学習で使える総合マニュアル』〕

22. 使えるお金



